BOJ
Reports & Research Papers

2015年４月20日

東北地域における観光の現状と課題

～観光産業の１兆円化を目指して～

日本銀行仙台支店　吉澤 謙人

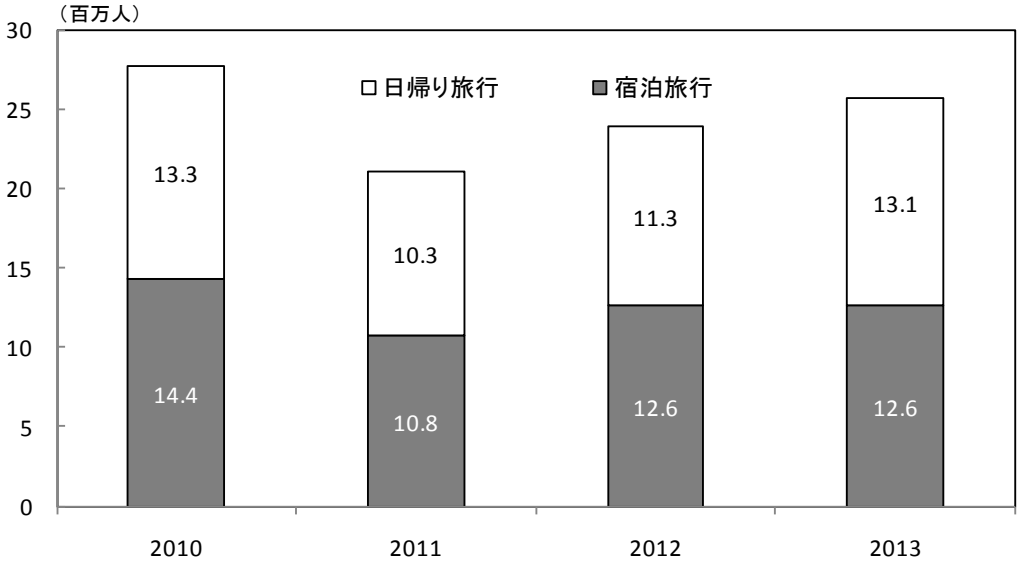
照会先：日本銀行仙台支店営業課（E-mail:sendai@boj.or.jp）

本レポートで示された意見は執筆者に属し、日本銀行の公式見解を示すものではありません。
本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行仙台支店までご相談ください。また、転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

１．はじめに

東北地域の観光入込み客数（図表１）は、東日本大震災の発生後、沿岸部を中心に大きく落ち込んだ後、復旧・復興の進展に伴って徐々に持ち直してきているが、2013 年において、依然として震災前の水準には達していない。

（図表１）東北地域における観光入込み客数の推移

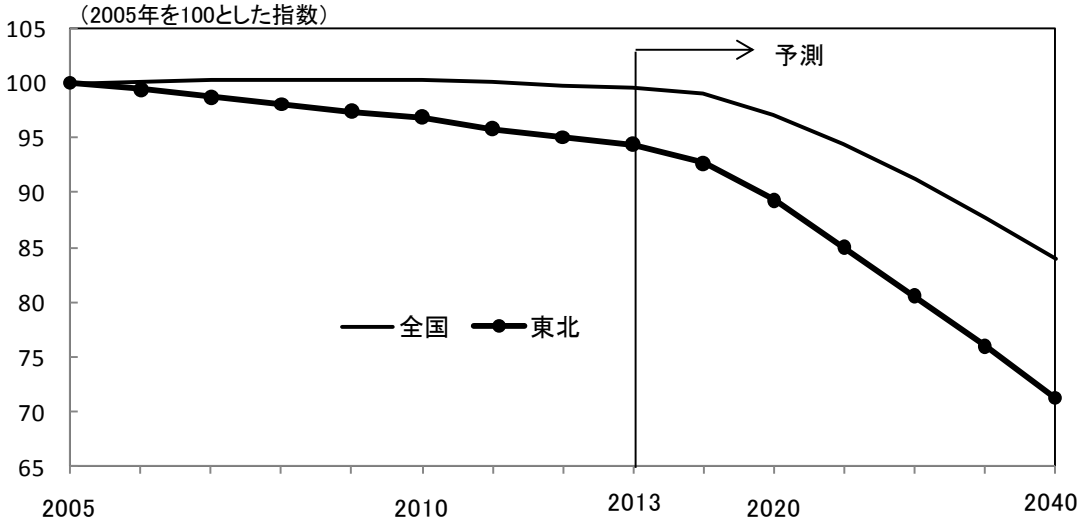


（出所）観光庁「旅行・観光消費動向調査」

観光産業の育成は、成長戦略の重点分野の一つに位置付けられており、各地方自治体が地方版総合戦略を策定するうえでも、主要な施策の一つとして注目されている。観光産業は、海外を含む地域内外の交流人口の増加やこれに伴う消費活動の活発化、さらには農林水産業を始めとする他の産業への波及など、高い経済効果が期待される分野である。東北地域においても、震災の影響もあり、人口減少や少子高齢化が全国に先駆けて進行する中（図表２）、まち・ひと・しごと創生にかかる総合戦略において、観光産業の育成・発展、特にインバウンドの取り込みについては、従来以上に強く認識されてきている。

そこで本稿では、東北地域の観光の現状と課題について、定量・定性両面から分析・整理を試みてみたい。

（図表２）将来人口推計



（出所）　2013 年までは総務省「人口推計」における実績値、それ以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」により作成。

２．東北地域の観光に関する分析

（１）東北地域における観光資源

東北地域の観光資源数を全国との比較でみると（図表３）、自然や温泉などを中心に全国有数の観光資源を保有する地域であることがわかる。

（図表３）観光地点・行祭事イベント数（2012 年）

	観光地点	自然	歴史・文化	温泉・健康	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	都市型観光	その他	行祭事・イベント
青森	325	51	67	52	79	50	26	141
岩手	275	36	60	72	63	22	22	134
宮城	276	30	78	40	60	41	27	116
秋田	274	36	52	64	73	17	32	131
山形	288	39	82	52	70	22	23	86
福島	291	50	78	49	76	16	22	90
全国平均	313	35	91	40	98	26	26	135

（出所）観光庁「全国観光入込客統計に関する共通基準」

これら観光資源の主なものを各県別、季節型・通年型に分けて整理したものが図表４である。ここで取り上げた観光資源は、あくまで一例に過ぎないが、季節ごとに様々な自然や歴史・文化、レジャーを有し、東北地域全体としてみれば、年間を通じて多様なニーズに対応できるバリエーション豊かな観光資源を有していることがわかる。さらに、農業、畜産業、水産業といった第一次産業に強み（生産額でみると、関東・九州に次いで全国３位＜図表５＞）を持っており、観光では極めて重要なコンテンツである“食”の面で、他地域に引けを取らない食材、料理、アルコール飲料等を有している（図表６）。

（図表４）東北地方主要観光資源一覧

	春(3～5月)	夏(6～8月)		秋(9～11月)	冬(12～2月)
	桜等	祭り	海水浴場	紅葉等	スキー場等
青森	弘前さくらまつり 金木桜まつり 芦野池沼群県立自然公園	青森ねぶた祭 弘前ねぷたまつり 五所川原立佞武多 八戸三社大祭 八戸七夕まつり	八戸市白浜	白神山地 奥入瀬渓流 弘前城菊と紅葉まつり	モヤヒルズ 釜臥山スキー場 大鰐温泉スキー場 岩木山百沢スキー場 七戸町営スキー場 そうまロマントピアスキー場 十和田湖温泉スキー場 弘前城雪燈籠まつり 八戸えんぶり
温泉	黒石温泉郷、嶽・湯段・百沢温泉、大鰐碇ヶ関温泉郷県立自然公園、下風呂温泉、湯野川温泉、碇ヶ関温泉、馬門温泉、浅虫温泉、薬研温泉、十和田湖畔温泉				
観光地	八食センター、観光物産館アスパム、奥入瀬・十和田湖、道の駅しちのへ「七戸町文化村」、八戸ポータルミュージアム「はっち」、道の駅なみおかアップルヒル、八戸公園（こどもの国）、地域交流センター鰐COME、弘前市立観光館、「道の駅」浅虫温泉ゆ～さ浅虫				
城	弘前城、根城				
岩手	北上展勝地さくらまつり 春の藤原まつり 江刺甚句まつり 日高火防祭 岩手公園・高松公園	盛岡さんさ踊り 北上みちのく芸能まつり 三陸・大船渡夏まつり チャグチャグ馬コ	真崎海岸 女遊戸 浄土ヶ浜	久慈渓流 花巻まつり 八幡平	安比高原スキー場 岩手高原スノーパーク 夏油高原スキー場 八幡平リゾートパノラマスキー場 雫石スキー場 奥中山高原スキー場 網張温泉スキー場 いわて雪まつり
温泉	鶯宿温泉、つなぎ温泉、花巻温泉、志戸平温泉、金田一温泉、鉛温泉、大沢温泉、台温泉、湯川温泉、岩手湯本温泉				
観光地	陸中海岸国立公園、十和田八幡平国立公園、平泉、遠野盆地、花巻温泉郷県立自然公園、厳美渓、安比高原、北上市立公園展勝地				
城	盛岡城				
宮城	仙台・青葉まつり おおがわら桜まつり 白石川堤一目千本桜 船岡城址公園	仙台七夕まつり 古川まつり 石巻川開き祭り 塩竈みなと祭	小田の浜 お伊勢浜 大谷	鳴子峡 定禅寺ストリートジャズフェ スティバル みちのくYOSAKOIまつり	スプリングバレー泉高原スキー場 みやぎ蔵王えぼしスキー場 セントメリースキー場 白石スキー場 泉ヶ岳スキー場 オニコウベスキー場 みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場 SENDAI光のページェント 松焚祭
温泉	秋保温泉、鳴子温泉、遠刈田温泉、上品の郷（ふたごの湯）、作並温泉、加護坊温泉、中山平温泉、志津川温泉、東鳴子温泉、金成温泉				
観光地	松島海岸、定義如来、塩竈神社、みちのく杜の湖畔公園、八木山動物公園、仙台城趾・瑞鳳殿・仙台市博物館、泉ヶ岳・七北田周辺				
城	多賀城、仙台城				
秋田	角館の桜まつり 千秋公園 真人公園 桧木内川堤・武家屋敷	竿燈まつり 大曲の花火 花輪ばやし 七夕絵どうろうまつり 港まつり能代の花火	釜谷浜 宮沢 象潟	田沢湖抱返り県立自然公園 秋の宮温泉郷・鬼首エコロード 角館のお祭り おなごりフェスティバル	花輪スキー場 秋田八幡平スキー場 たざわ湖スキー場 太平山スキー場オーパス 阿仁スキー場 天下森スキー場 ジュネス栗駒スキー場 横手の雪まつり 犬っこまつり
温泉	田沢湖高原・乳頭温泉郷、玉川温泉、大湯温泉、湯瀬温泉、秋田八幡平温泉郷、秋の宮温泉、小安峡温泉、大滝温泉、森岳温泉、男鹿温泉、水沢温泉郷				
観光地	ポートタワーセリオン、秋田ふるさと村、道の駅十文字、十和田八幡平国立公園、国立公園十和田湖、観光情報センター、角館武家屋敷、道の駅雁の里せんなん				
城	久保田城				
山形	霞城観桜会 酒田まつり 鶴岡公園 烏帽子山公園 薬師まつり植木市	山形花笠まつり 新庄まつり ゆめタネ@さがえ むらやま徳内まつり 赤川花火大会 山形県観光物産市	西浜 由良 マリンパークねずがせき	蔵王連峰 赤芝峡 米沢上杉まつり	山形蔵王温泉スキー場 月山スキー場 黒伏高原スノーパークJJ 米沢スキー場 花笠高原スキー場 湯殿山スキー場 たらのきだいスキー場
温泉	蔵王温泉、かみのやま温泉、天童温泉、湯野浜温泉、赤湯温泉、さくらんぼ東根温泉、あつみ温泉、鳥海温泉、銀山温泉、碁点温泉				
観光地	道の駅鳥海ふらっと、松岬公園、庄内観光物産館、蔵王エコーライン、酒田夢の倶楽、道の駅むらやま				
城	山形城				
福島	鶴ヶ城公園 霞ヶ城公園	いわき夏まつり 釈迦堂川花火大会 福島わらじまつり 郡山うねめまつり ふくしま花火大会 喜多方レトロ横町 あさか野夏まつり花火大会 金比羅神社例大祭	双葉	磐梯吾妻スカイライン ブナ平 会津まつり 二本松の菊人形	会津高原たかつえスキー場 猪苗代スキー場 アルツ磐梯スキー場 グランデコスノーリゾート グランドサンピア猪苗代リゾートスキー場 グランディ羽鳥湖スキーリゾート あだたら高原スキー場
温泉	飯坂温泉、磐梯熱海温泉、いわき湯本温泉、東山温泉、土湯温泉、岳温泉、芦ノ牧温泉、甲子・新甲子温泉、母畑・石川温泉、檜枝岐温泉				
観光地	磐梯高原、伊佐須美神社、あづま総合運動公園、喜多方市街、道の駅ばんだい、ファーマーズマーケットはたけんぼ				
城	二本松城、会津若松城、白河小峰城				

（出所）　東北運輸局「図でみる東北の運輸」、日本城郭協会「日本 100 名城」、日本さくらの会「さくら名所 100 選の地」、主婦の友社「日本紅葉の名所 100 選」、環境省「快水浴場百選」

（図表５）農林水産業の生産額（2010 年）（図表６）郷土料理等の数

（億円）

	農林水産業			
		農業	林業	水産業
北海道	6,719	5,057	241	1,420
東北	7,990	6,536	406	1,046
関東	11,501	10,543	435	523
中部	6,082	4,746	373	962
近畿	3,187	2,693	148	345
中国	2,988	2,172	305	510
四国	3,087	2,135	322	629
九州	10,124	8,138	460	1,524

（出所）内閣府「県民経済計算」

	郷土料理	B級グルメ	清酒	果実酒	ビール・ウィスキー
青森	55	4	21	4	4
岩手	57	4	23	5	7
宮城	37	2	34	1	7
秋田	18	4	43	4	4
山形	36	2	55	13	4
福島	35	1	74	3	5

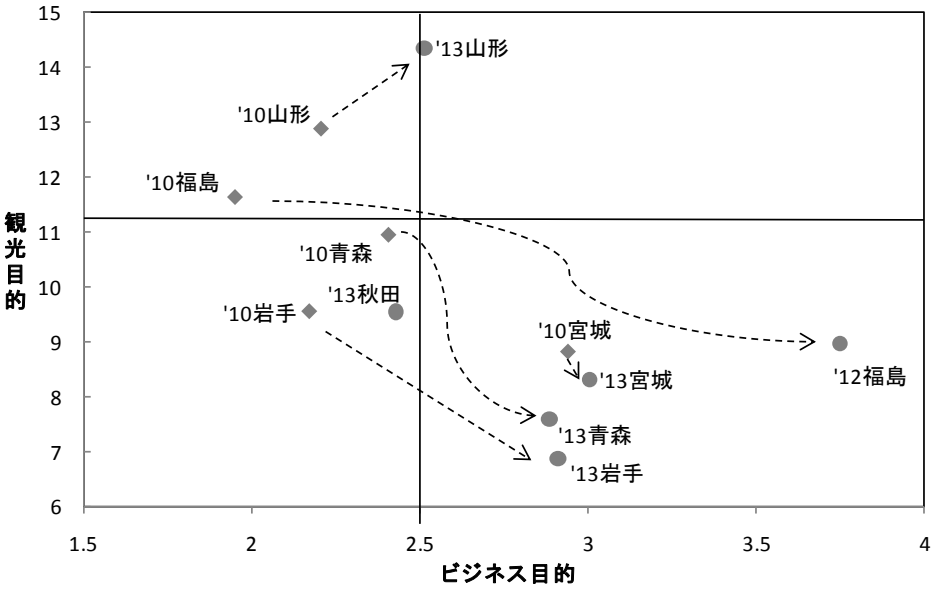
（出所）　農林水産省「農山漁村の郷土料理百選・候補料理」、愛 B リーグ加盟団体、仙台国税局「酒蔵マップ（平成 26 年 12 月 1 日）」

（２）東北地域における観光の特徴等

①日本人観光客の状況

日本人旅行者の入込状況（図表７）を目的別にみると、震災以降、被災地を中心に観光目的客数が減少する一方、復旧・復興工事関係者などといったビジネス目的客数が大幅に増加している。もっとも、ビジネス目的客数は、復興が進捗するにつれて、今後減少していくことが想定される。実際に、宿泊施設や交通機関からは、「既に 2013 年頃から利用者が減少基調に転じている」などといった声が聞かれているほか、東北短観をみても、観光関連業の業況判断ＤＩは 2012 年がピークとなっている（図表８）。もっとも、同ＤＩの水準は震災前よりも高い水準で推移しているほか、「復旧・復興支援目的の来訪者が、東北地域の魅力を実感し、リピーターとなっている」という声も少なからず聞かれている。

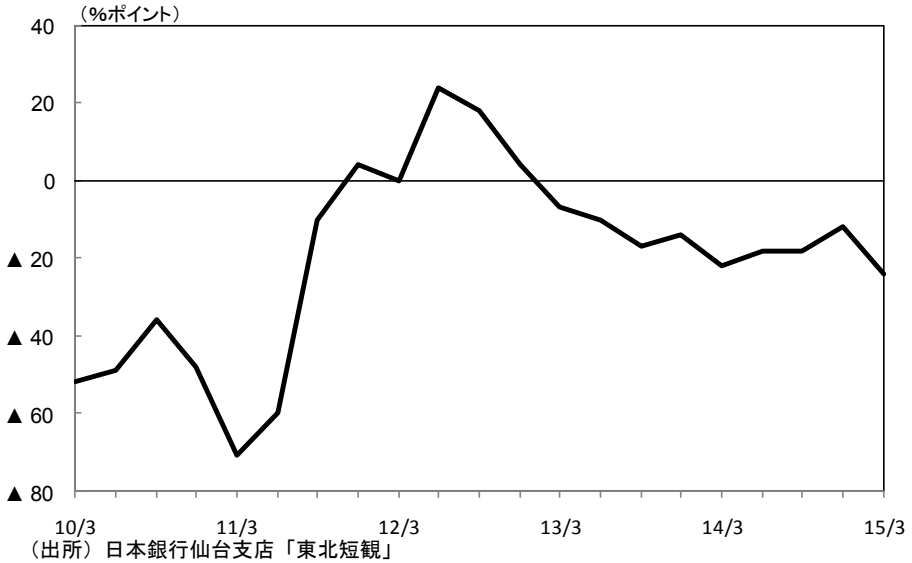
（図表７）人口１人あたり日本人旅行者入込状況（旅行目的別）



（注）　観光目的客数（日帰り客＋延べ宿泊客）とビジネス目的客数をそれぞれ各県の人口で除した値をプロット。但し、2010 年時点で共通基準未導入の秋田県は 2013 年のみとし、福島県は 2013 年の計数が集計中のため 2012 年を使用。図中の実線は 2013 年における共通基準を導入している都道府県の中央値。

（出所）観光庁「全国観光入込客統計に関する共通基準」、総務省「人口推計」

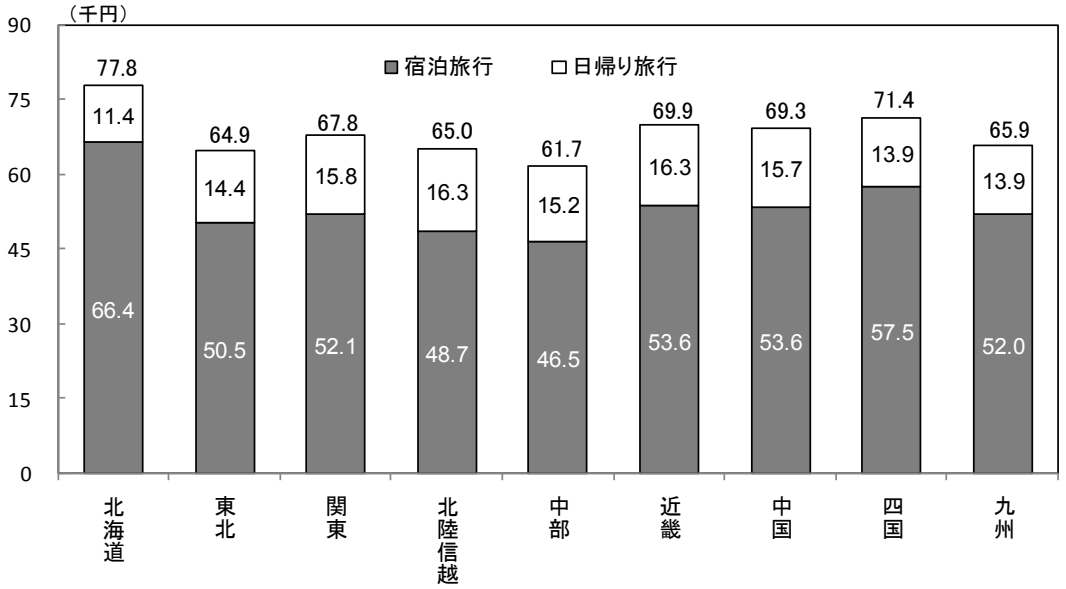
（図表８）観光関連業（飲食・宿泊サービス）における業況判断ＤＩの推移



（出所）日本銀行仙台支店「東北短観」

次に、観光消費（１人あたり）についてみると（図表９）、宿泊旅行での消費額の少なさを主因として、中部地域に次いで２番目に低い状況にある。さらに、各県別に観光消費の内訳をみると（図表 10）、国内の代表的な観光地である北海道・京都市に比べ、土産物や飲食への支出額が少ない傾向にある。このことから、東北地域は、土産物や飲食・宿泊サービスの魅力を十分に訴求できていないと考えられる。

（図表９）日本人旅行者の１人あたり観光消費額（2013 年）



（出所）観光庁「旅行・消費動向調査」

（図表 10）旅行単価（県<市>外客）の内訳

（円）

	旅行単価		交通費		土産物		宿泊費	飲食	
旅行形態	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊		日帰り	宿泊
青森県	5,690	25,074	1,227	3,874	2,568	6,625	10,047	1,575	5,622
岩手県	7,098	25,776							
宮城県	10,221	22,896	4,021		5,093		19,109	3,655	
秋田県	11,607	43,433							
山形県	6,394	27,060							
福島県	12,061	27,101							
北海道	21,709	76,825	18,674		18,012		17,863	10,612	
京都市	7,096	32,630	918	3,350	2,248	8,039	7,806	2,309	9,701

（注１）　旅行単価の内訳（交通費・土産物・宿泊費・飲食）および京都市の旅行単価は、各地方自治体の公表資料の計数としている。従って、各地方自治体ごとに内訳項目の定義が異なっているほか、内訳項目を合計しても旅行単価とは一致しない。

（注２）旅行単価は、福島県のみ 2012 年で、残る７道県市は 2013 年。内訳は、青森県と京都市が 2013 年、宮城県が 2012 年度、北海道が 2010 年度公表資料時点。

（出所）観光庁「全国観光入込統計に関する共通基準」、各地方自治体の直近公表資料。

この点を民間調査機関における旅行先の魅力度アンケート調査結果からみると（図表 11）、飲食・土産物・宿泊関連において、トップテンへのランクインがほとんどみられない。その一方で、「ホスピタリティ」では、震災以前から東北各県が多数ランクインしている。これは、東北人の“おもてなし”や「気質」・「人柄」が魅力ある観光資源となっていることの証左と言える。こうしたホスピタリティ面での強みに、ハード（施設）面での魅力や、飲食・土産物の訴求力向上が合わされば、観光客の増員に寄与するものと考えられる。また、訴求力を向上させるためには、個々の観光資源の魅力をばらばらに宣伝するのではなく、複数をセットにして、その移動手段も含めて、広告・宣伝することが、コストパフォーマンスも良く、長期滞在や東北地域内での長期周遊に繋がるものと思われる。

（図表 11）旅行先の魅力度アンケート

▽飲食関連

（「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」）

2013	2012	2011	2010	2009
1 高知県	1 沖縄県	1 高知県	1 高知県	1 沖縄県
2 広島県	2 北海道	2 **宮城県**	2 香川県	2 高知県
3 北海道	3 石川県	3 石川県	3 沖縄県	3 香川県
3 香川県	4 香川県	4 沖縄県	4 北海道	4 鹿児島県
5 宮崎県	5 福井県	5 福井県	5 **山形県**	5 北海道
6 石川県	6 **宮城県**	6 北海道	6 長崎県	6 福井県
7 沖縄県	7 広島県	6 香川県	7 **宮城県**	7 **宮城県**
8 富山県	8 鹿児島県	8 富山県	8 鹿児島県	8 **山形県**
8 福岡県	9 福岡県	9 長崎県	9 富山県	9 長崎県
10 **宮城県**	10 富山県	10 広島県	10 福井県	10 **青森県**

▽土産物関連

（「魅力ある特産品や土産物が多かった」

2013	2012	2011	2010	2009
1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県
2 京都府	2 京都府	2 京都府	2 京都府	2 鹿児島県
3 北海道	3 北海道	3 長崎県	3 高知県	3 京都府
4 高知県	4 鹿児島県	4 高知県	4 北海道	4 高知県
5 鹿児島県	5 **青森県**	5 北海道	5 鹿児島県	5 長崎県
6 富山県	6 広島県	6 石川県	6 長崎県	6 北海道
7 **宮城県**	7 富山県	7 鹿児島県	7 香川県	7 **青森県**
8 長崎県	7 石川県	8 **宮城県**	8 **山形県**	8 宮崎県
9 広島県	9 高知県	9 宮崎県	9 宮崎県	9 石川県
10 宮崎県	10 **宮城県**	10 香川県	10 **宮城県**	10 **宮城県**
			10 石川県	

（次ページに続く）

▽宿泊関連

（「魅力的な宿泊施設が多かった」）

2013	2012	2011	2010	2009
1 大分県	1 大分県	1 大分県	1 沖縄県	1 沖縄県
2 沖縄県	2 沖縄県	2 沖縄県	2 大分県	2 千葉県
3 熊本県	3 神奈川県	3 千葉県	3 熊本県	3 大分県
4 北海道	4 群馬県	4 熊本県	4 千葉県	4 熊本県
5 千葉県	5 石川県	5 神奈川県	5 鹿児島県	5 長崎県
6 神奈川県	6 千葉県	6 群馬県	6 神奈川県	6 石川県
7 兵庫県	7 栃木県	7 北海道	7 長崎県	7 北海道
8 鹿児島県	8 北海道	8 岐阜県	8 北海道	8 鹿児島県
9 岐阜県	9 岐阜県	9 石川県	9 群馬県	9 神奈川県
10 石川県	10 鹿児島県	10 栃木県	10 **山形県**	10 和歌山県

▽ホスピタリティ

（「地元の人のホスピタリティを感じた」

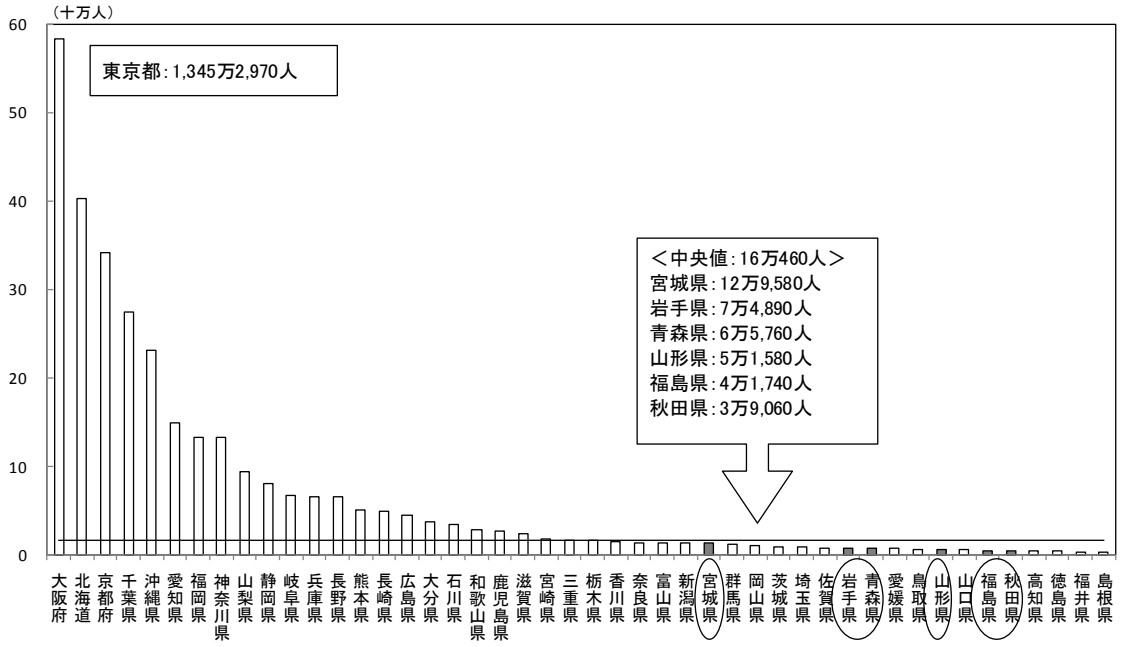
2013	2012	2011	2010	2009
1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県	1 沖縄県
2 **青森県**	2 **秋田県**	2 宮崎県	2 鹿児島県	2 鹿児島県
3 鹿児島県	3 **岩手県**	3 鹿児島県	3 **岩手県**	3 **秋田県**
4 徳島県	4 鹿児島県	4 **青森県**	4 **山形県**	4 高知県
5 高知県	5 **福島県**	5 **宮城県**	5 高知県	5 宮崎県
6 **福島県**	6 熊本県	6 **岩手県**	6 京都府	6 京都府
7 宮崎県	7 **山形県**	7 **山形県**	7 **青森県**	7 **青森県**
8 熊本県	8 大分県	8 京都府	8 **秋田県**	7 熊本県
9 愛媛県	9 **宮城県**	9 島根県	9 熊本県	9 新潟県
10 京都府	10 愛媛県	10 **秋田県**	10 宮崎県	10 奈良県

（出所）じゃらんリサーチセンター「宿泊旅行調査」

②外国人観光客の状況

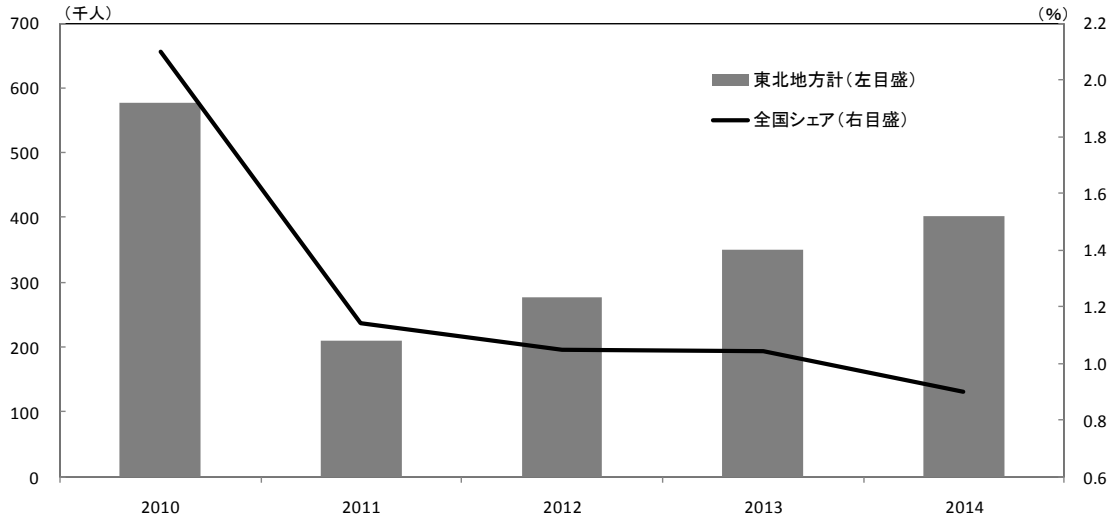
外国人延べ宿泊客数をみると（図表 12)、東北６県はいずれも全国の中で低位に位置しており、インバウンドの取り込みが課題となっている。震災直後の落ち込みからは徐々に持ち直しつつあるが、震災以前においても全国シェアは２％であり、海外との交流人口が少ない地域であった。このところ訪日外国人旅行者が為替円安等を追い風に大幅に増加しているが、東北地域はその恩恵を享受することが出来ず、足もとのシェアはさらに低下した形となっている（図表 13)。この要因としては、根強い風評被害や、主要空港における国際線就航本数・路線の少なさ（図表 14）などが挙げられるが、より根本的には、海外における東北地域の観光地としての認知度が低いこと（海外の旅行情報サイトにおける日本の人気観光地ランキングにおいて、東北６県は登場していない＜図表 15＞）が挙げられる。

（図表 12）外国人延べ宿泊客数（都道府県別・2014 年）



（出所）観光庁「宿泊旅行統計調査」

（図表 13）東北地域の外国人延べ宿泊旅行者数と全国シェアの推移



（出所）観光庁「宿泊旅行統計調査」

（図表 14）主要空港の国際線就航状況及び空港別国際線乗降客数

	仙台	青森	秋田	新千歳	福岡
台北	□	—	—	◎	◎
北京	□	—	—	□	◎
上海	□	—	—	□	◎
香港	—	—	—	◎	◎
ソウル	□	□	□	◎	◎
釜山	—	—	—	□	◎
バンコク	—	—	—	◎	◎
マニラ	—	—	—	—	◎
ハノイ	—	—	—	—	□
ホーチミン	—	—	—	—	□
シンガポール	—	—	—	—	◎
ホノルル	□	—	—	□	◎
グアム	□	—	—	□	◎

◎は毎日運航／□は週2-5便運航

（人）

順位	空港	国際線乗降客数
1	成田国際	27,640,233
2	関西国際	11,664,806
3	東京国際	7,974,122
4	中部国際	4,308,984
5	福岡	3,117,724
6	新千歳	1,275,580
7	那覇	869,710
～		
11	仙台	172,581
～		
24	青森	38,075
～		
28	秋田	30,444
～		
33	花巻	8,982
34	福島	6,128
～		
44	山形	681
～		
46	庄内	580

（注）国際線就航状況は 2015 年２月時点。
（出所）各空港ＨＰ、国土交通省「平成 25 年空港管理状況調書」

（図表 15）海外の主要旅行サイトにおける日本の観光施設ランキング

	TripAdvisor		Touropia		Travelience（温泉地ランキング）	
	場所	都道府県	場所	都道府県	場所	都道府県
1	伏見稲荷神社	京都府	金閣寺	京都府	箱根温泉	神奈川県
2	広島平和記念館	広島県	富士山	静岡県/山梨県	由布院温泉	大分県
3	厳島神社	広島県	皇居	東京都	草津温泉	群馬県
4	金閣寺	京都府	東京タワー	東京都	登別温泉	北海道
5	東大寺	奈良県	東大寺	奈良県	別府温泉	大分県
6	高野山奥之院	和歌山県	鎌倉大仏	神奈川県	黒川温泉	熊本県
7	清水寺	京都府	姫路城	兵庫県	指宿温泉	鹿児島県
8	新宿御苑	東京都	清水寺	京都府	有馬温泉	兵庫県
9	箱根彫刻の森美術館	神奈川県	地獄谷野猿公苑	長野県	下呂温泉	岐阜県
10	成田山新勝寺	千葉県	広島平和記念館	広島県	渋温泉	長野県
11	美ら海水族館	沖縄県				
12	松本城	長野県				
13	三十三間堂	京都府				
14	嵐山モンキーパークいわたやま	京都府				
15	兼六園	石川県				
16	ロボットレストラン	東京都				
17	二条城	京都府				
18	長崎原爆記念館	長崎県				
19	森美術館	東京都				
20	明治神宮	東京都				
21	地獄谷野猿公苑	長野県				
22	奈良公園	奈良県				
23	道頓堀	大阪府				
24	渋谷センター街	東京都				
25	浅草寺	東京都				
26	海遊館	大阪府				
27	ビデオゲームバースペースステーション	大阪府				
28	トヨタ産業技術記念館	愛知県				
29	錦市場	京都府				
30	心斎橋	大阪府				

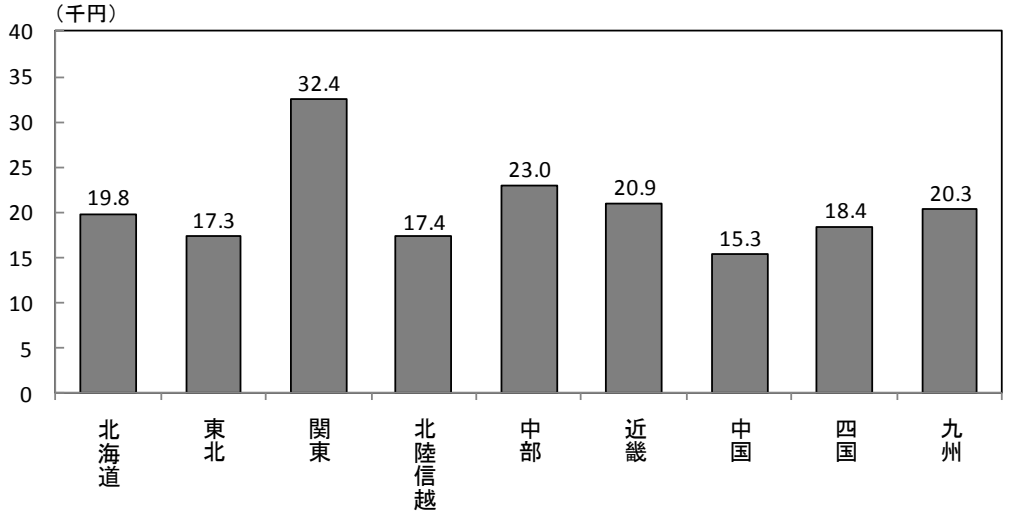
※Japan's Top 30 Most Popular Tourist Destinations (2014)

※10 Top Tourist Attractions in Japan（2014）

※Top 10 recommended Onsen(Hot springs) to vist in Japan（2014）

さらに、観光消費（１人１泊あたり）の面でも、東北地域は中国に次いで２番目に低く（図表 16)、日本人観光客と同様に、外国人観光客に対しても、土産物や飲食・宿泊サービスの魅力を十分に訴求できていないという状況が窺われる。

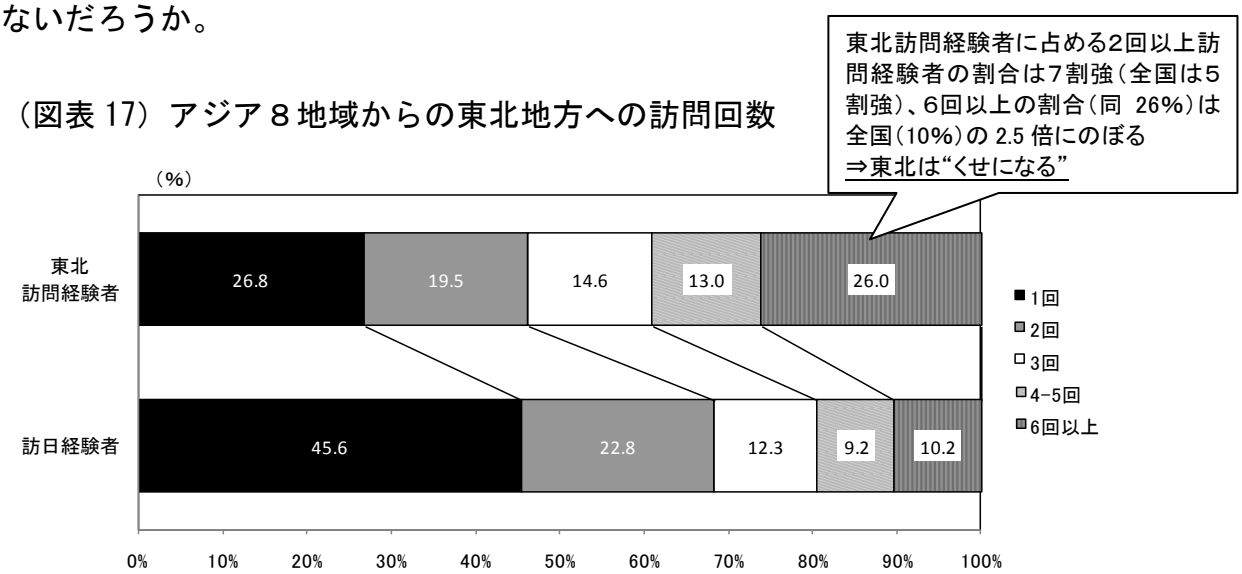
（図表 16）外国人旅行者の１人１泊あたり観光消費額（2012-2014 年平均値）



（出所）観光庁「訪日外国人消費動向調査」

もっとも、アジア地域からの観光客に関する調査においては（図表 17）、東北地域への訪問経験者のリピート率は全国平均を大きく上回っているとの結果がみられる。このことは、冒頭に述べたバリエーション豊かな観光資源や、東北人の“おもてなし”は、外国人観光客には“くせになる”ものということではないだろうか。

（図表 17）アジア８地域からの東北地方への訪問回数



（注）韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアの８地域を対象に行なった調査。
（出所）日本政策投資銀行東北支店「東北におけるインバウンド（アジア８地域）意向調査（平成 26 年版）」

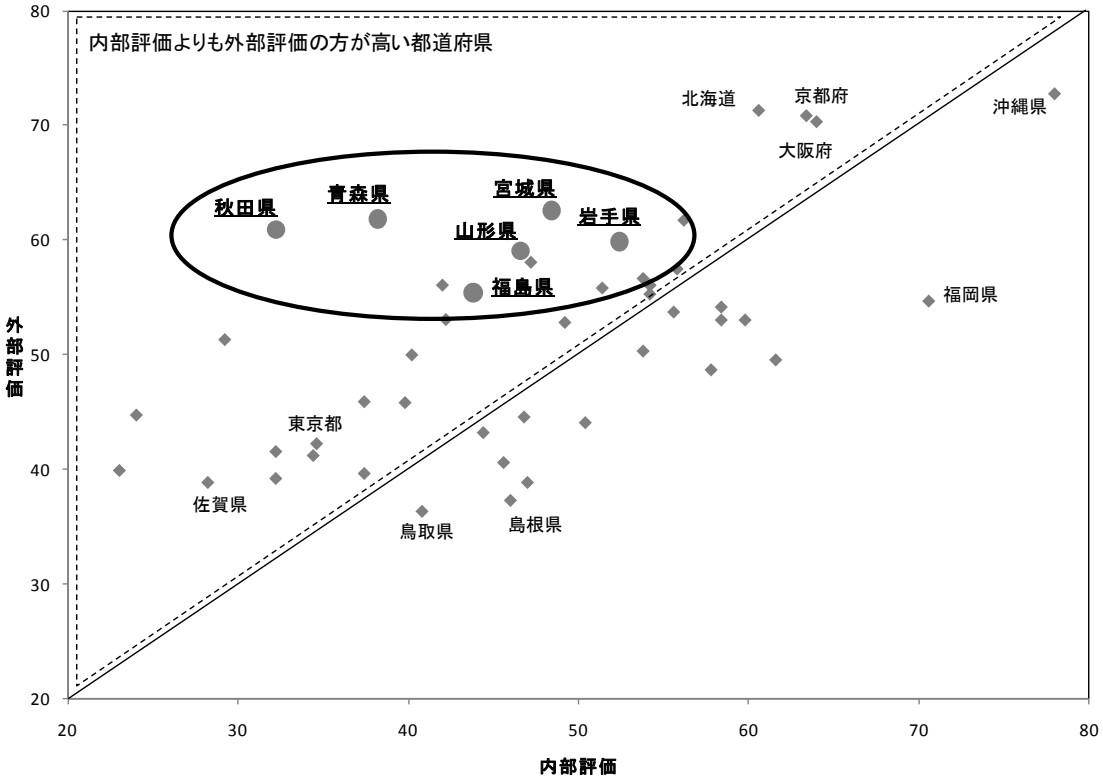
③東北地域の観光ブランド力

このように東北地域の観光は、観光資源の面では国内他地域に比べて決して引けを取らない、むしろホスピタリティに代表されるように、極めて優位性の高い分野も存在している。にも関わらず、こうした潜在能力を必ずしも十分に発揮できていないと思われる。

この点について、民間調査機関における都道府県別ブランド力調査をみると（図表 18）、東北６県の全てにおいて、内部評価（県民における自己評価）が外部評価（県外からの当該県評価）を下回っているとの結果が出ている。これは、東北人の“奥ゆかしさ”を示す一つの調査結果ではあろうが、今後、一つの産業として観光を育てていくためには、自らの魅力を積極的に宣伝し、高付加価値のサービスを提供していくことが肝要と考えられる。幸い、このところ、国内外における各地方自治体の首長によるトップセールスなどにより、関係者における東北各地の売り込みが積極的に行われているほか、東北観光推進機構[1]による「東北ブランドの確立」への取り組みが進められている。また、民間においても、東北ならではの観光素材の発掘、製商品・サービス化に取り組む事例が広がっている（後述）ことは心強い。

[1] 東北７県の地方自治体と民間が一体となり、東北観光の認知度向上と、国内・海外観光客等の誘致を推進する組織。

（図表 18）都道府県別ブランド力

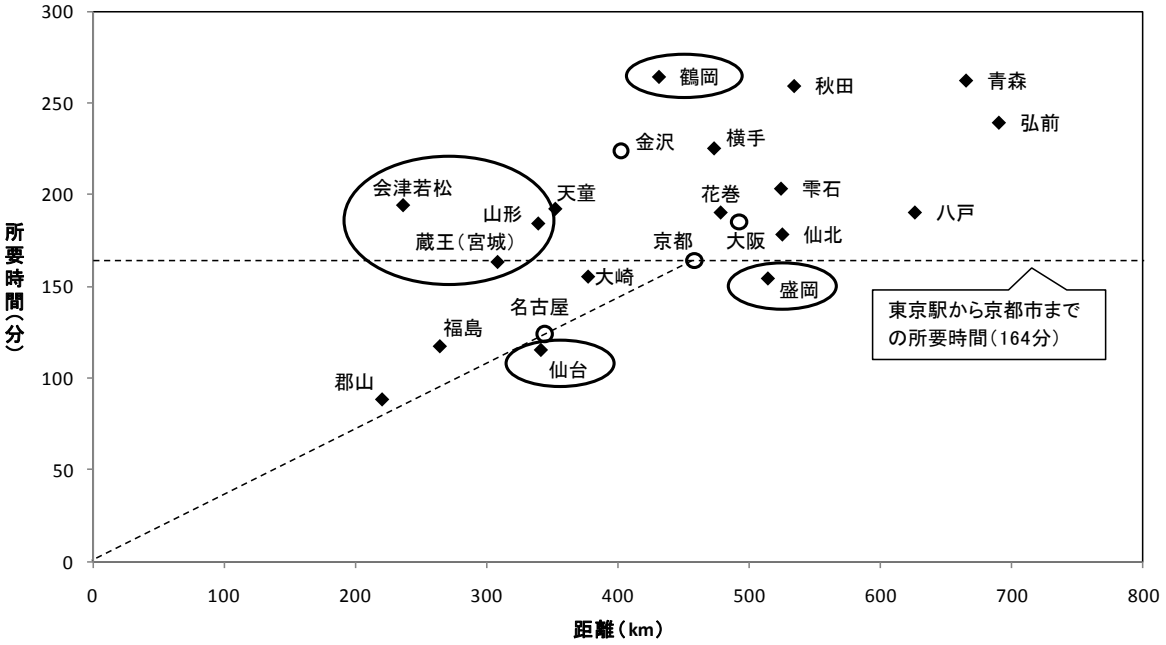


（出所）博報堂「“属”ブランド力調査」

④首都圏からのアクセスの容易性

東北地域への観光客数が伸び悩む背景として、首都圏からのアクセスが必ずしも良くないという要因も挙げられる。図表 19 は、東京駅から東北各県の主な観光地（各県における入込み客数上位３市町）への鉄道を利用した場合の所要時間と距離をプロットしたものである。日本を代表する観光地である京都市を基準にみると、例えば、南東北の主要観光地である会津若松市や蔵王町（宮城県）、山形市、鶴岡市では、東京駅からの距離が京都市よりも近いにも関わらず、所要時間が長い。勿論、実際には飛行機・バス等多様な交通手段があり、もっと短時間で移動することが可能であるケースは多い。もっとも、それらの乗り継ぎの利便性が高くなければ、結局、観光振興におけるハンディキャップとなってしまう点は留意しておく必要があろう。前述のように東北の周遊旅行やリピーターを増やすためには、そうした観点からの交通ネットワーク作りが必要と考えられる。

（図表 19）東京駅からの所要時間と距離



（注） 東京駅から各市町の庁舎所在地までの鉄道を利用した場合の所要時間と、距離を Google マップを利用して算出（2015 年 3 月 18 日時点）。

⑤コンベンションの状況

コンベンションの開催は、観光と同様に地域に及ぼす経済波及効果が大きい。インバウンドの取り込みにもつながる国際会議の開催件数をみると（図表 20）、東北地域での開催件数は、右肩上がりで大幅増加をみている九州地域との差が広がっており、震災前までは北海道での開催件数にも及ばない状況が続いていた。また、会場等、施設面の制約もあって、開催場所は宮城県が中心となっている。

こうした中で、2015 年３月に仙台市において開催された第３回国連防災世界会議への参加・来場者数は延べ 15.6 万人にものぼった。仙台市では、この成功を足掛かりとして、国際コンベンション都市としての地位を確立し、インバウンド需要の取り込みに積極的に取り組んでいる。今後は、例えば、本会議を仙台市で、分科会を他地域や東北他県で行うことにより、国連防災世界会議クラスの大型コンベンションを広域で受け入れ、エクスカーションも絡めながら東北全体の知名度を上げていくといった方策も検討に値しよう。

（図表 20）国際会議開催件数の推移

（回）

		2004年	2006年	2008年	2010年	2011年	2012年	2013年
北海道		77	51	87	97	81	68	98
東北		58	57	77	86	54	113	101
	青森県	2	2	3	1	7	3	5
	岩手県	0	0	2	6	1	3	3
	秋田県	1	1	3	1	2	1	2
	山形県	3	1	2	2	2	3	0
	宮城県	49	53	66	74	42	85	81
	福島県	3	0	1	2	0	18	10
関東		675	692	873	878	757	829	897
北陸信越		40	33	49	82	60	72	61
中部		122	126	186	172	145	175	174
近畿		447	458	488	478	412	641	649
中国		50	38	53	56	55	83	98
四国		14	6	10	7	8	12	8
九州		145	214	285	313	331	360	370

（出所）日本政府観光局「国内都市別国際会議開催件数一覧〈新基準適用〉」

（４）東北地域における最近の主な取り組み

東北地域における観光客の呼び込みに向けた最近の主な取り組みを概観すると、民間部門においては、東北地域ならではの新たな切り口や多様化する顧客ニーズの捕捉・絞り込みにより、観光素材を発掘し、製商品・サービス化を図り、これが好評を得ている事例が各地でみられている。例えば、被災地観光・震災学習としての「語り部タクシー」や「震災学習列車」、プロスポーツチーム応援と周辺地域周遊を組み合わせた観光プランの提供、スキー需要が旺盛ないしは雪に馴染みのない外国人観光客に対する冬の東北観光情報の発信のほか、健康志向に対応した新事業（「クアオルト」）、アクティブシニア向けの高付加価値プランの提供などの動きがみられている。

また、各地方自治体等の公的機関や経済団体、地域金融機関等では、こうした民間企業における自律的な取り組みを後押しすべく、インフラ整備（仙台空港の民営化推進、コンベンション施設の拡充、観光施設の改装等）や、首長によるトップセールスを始めとする国内外での誘客活動・情報発信、さらには、ビジネスマッチングを通じた農水産品等の売り込みなどを積極的に展開している。

従来、こうした取り組みは、各地方自治体等が個々に取り組むケースが多かったが、各県主要都市の広域連携により東北の新たな観光の目玉に成長している「東北六魂祭」の成功もあって、地域間のみならず、異業種間や官民が連携し、東北全体をアピールする観光ブランドの確立を図ろうとする動きにまで発展している。具体的には、2015 年５月～10 月における国際博覧会（ミラノ）への地方自治体・経済団体等[2]の参加などが挙げられる。

[2] 2015 年３月５日時点で、岩手県・宮城県・山形県・福島県・石巻市・鶴岡市・東北経済連合会の参加が決定しているほか、仙台市や東北六魂祭も参加する方向で調整が進められている。

３．東北地域の観光が目指すべき姿（おわりに）

このように、東北地域における観光強化に向けた取り組みが積極化しているのは、地域全体として、「経済波及効果の高い観光産業を、地方創生のための基幹産業のひとつとして育てていく」という機運がこれまで以上に高まっていることによるものであろう。こうした機運の高まりを、確実な実績に結び付けていくためには、「協調性が高く、粘り強い“東北人気質”」を活かし、「広域連携」の下で諸施策に「継続的」に取組んでいくことが期待される。

本稿の最後に、東北地域における観光産業の当面の目標として、「観光産業の１兆円化」を目指すことを提案することとしたい（図表 21）。

観光庁提供統計を用いて簡易に試算した東北地域における直近の観光消費額は約８千億円と推計される。もっとも、これは、根強く残る風評被害や被災に伴う宿泊施設等の損壊による供給制約などを考慮すれば、実力ベースでの経済規模とは言い難い。

そこで、東北６県が総力を挙げて風評被害の払しょくに取り組みつつ、それぞれが、これまでに既に達成している実績（既往ピーク）の観光客数を呼び込むことを目標のひとつに掲げてはどうか。各県がこれを達成すれば観光消費額は約 9,500 億円（ケース①）となる。その際、「各地域」が自らの魅力をアピールし、リピーターを増やすことも大切であるが、「東北版ゴールデンルート」を開発[3]し、「東北地域」へのリピーターを増やすために提携することが鍵になると思われる。

次に、東北地域が有する観光資源の潜在能力を引き出すことにより、観光消費単価を全国並みにまで引き上げることも目標とした場合、観光消費額は 1 兆円を超える（ケース②）こととなる。因みに、この規模は 2014 年の東北地域スーパー売上高に匹敵する規模である。

本試算では、最近の為替円安や政府の積極的なプロモーションの奏功により急増している外国人観光客の入込みを過去実績に止めており、東北地域においても全国並みの増加ペースを確保できたとすれば、さらなる上積みも期待できる。言い換えれば、目先の目標としては“のびしろ”を有した実現可能なものとなっているのではないだろうか。

（図表 21）観光消費額の試算

（億円）

		現状	ケース①	ケース②
日本人観光客	宿泊旅行	6,372	7,252	7,708
	日帰り旅行	1,891	1,924	2,044
外国人観光客		233	415	614
合計		8,496	9,590	10,366

（注）観光庁「旅行・観光消費動向調査」「宿泊旅行統計調査」「訪日外国人消費動向調査」における観光・レジャー目的の客数および観光消費額を基に日本銀行仙台支店において試算。

以　　上

[3]「震災復興第５次提言別紙　国際・観光委員会『インバウンド誘客に関する意見書』（仙台経済同友会）」を参照。